

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2005年5月15日 第48号 WEB版</p>
		<p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>
		<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会</p>
		<p>http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</p>
		<p>E-mail : mizumidori@nifty.com</p>
		<p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>

アメリカフウロソウとゲンノショウコ



(写真 1) 新大宮バイパス側道(四葉)のアメリカフウロソウ

ゲンノショウコは「現(または験)の証拠」と書かれるほど、速効性の健胃整腸薬(乾燥したものを煎じて飲む民間薬)として古くから知られているが、最近では草地や道端で似た草をよく見かけのは、大抵アメリカフウロソウですね。本物のゲンノショウコは全国的に減っているようだ。どちらもフウロソウ科で性状もそっくりだが、主な見分け方は次のようになる。

葉はどちらも掌状ですが、3～5裂する切れ目が深く、裂け目が広い(小葉の部分の幅が狭い)のが外来種です(芽生えたばかりの若い時の本葉は大変よく似ている)。花(5弁)はアメリカフウロソウの方が1センチ以下とゲンノショウコより小さく、白くて花弁の先がやや平らに見える。ゲンノショウコの花は赤紫から白まで色々あり(西日本では赤系が多く東では白が多い由)、花弁の形や重なり具合なども多様です。花期はアメリカフウロソウの方が早く4月からで、ゲンノショウコは7月以降のようだ(交雑種があるのかゲンノショウコに似た葉や花の形のもので5月に咲くものが見られる・写真2)。



(写真 2) ゲンノショウコの葉だが5月10日に咲いた株(赤塚植物園[万葉植物園])
フウロソウ科の植物は780種もあり、国内の各地の気候に適応した野草となって、
フウロの名の種が自生しており、外来種では野草のアメリカフウロの他に園芸種の
各種ゼラニウムやペラルゴニウムなど広く栽培・鑑賞されている。ペラルゴニウム
もゼラニウムもフウロソウ科の総称(英語名)でゲンノショウコもゼラニウムの一種
になる。

ゲンノショウコは広く親しまれて来たため各地に別の呼び名があり、タネの尖った鞘
(蒴果)の下が裂け、天辺を支点に5枚の殻が捲りあがる形が神輿の屋根に似ている

ので、全国的にミコシグサがあり、その他に薬効からイシャイラズ・イシャダオシ・テキメンソウ・タチマチグサ・ゲリドメ・セキリグサなどが、植生からイタチグサ(匍匐性)とかネコアシ(葉)などの名前がある。因みにゼラニウム(天竺葵)の和名は天竺葵。



(写真 3) 赤塚植物園 (万葉植物園) のアメリカフウロソウ

フウロソウ科の植物には、全てに同じ薬効成分が含まれているが、ゲンノショウコ以外は少ないため薬としては利用されない。若葉は食べられる(白和えや天ぷら)そうだが、繊維が硬いので細かく刻む必要があり、有毒のトリカブトなどに似ているので、山で食べるには細心の注意が必要だ。

アメリカフウロソウは名の通りアメリカ(カロライナ州)から、ゼラニュームは南アフリカからきたものだが、とも水はけがよく日当たりのよい乾燥地を好むが、条件の悪い所でも育つ丈夫な植物だ。園芸種は寒さに弱い、アメリカフウロソウは耐寒性があり、多年生で他の草が枯れている早春から生育し、雑草の中でも立ち上がるなど繁殖力は旺盛で、あまり目立たないがセイヨウタンポポや、アメリカセンダングサなどと同じように繁茂しているようだ。

(猪鼻昭二)

豆ちゃんカエル 赤塚トンボ池から大量に上陸

3月に赤塚トンボ池にカエル達が来て卵を産みます。しばらくするとその卵の一部は消えてなくなります。残った卵からオタマジャクシがかえり、黒い塊になって群れています。そこへザリガニがアタックします。そして間もなくオタマジャクシはいなくなる…毎年こんなことの繰り返しでした。オタマジャクシの天敵は、二本足の動物(数も多く手強い)、ザリガニ、コイだと思っていました。でもコイはオタマジャクシを食べないそうです。

3月10日ごろ、これまでにない数のカエルが集まってきました。「数えたら20匹までいた」という報告もあります。くっくつと小さく鳴きながら、水の中をばしゃばしゃと泳ぎ、なんと大きなコイの頭にしがみつくのもいて、笑ってしまいました。後で聞いたら産卵期のオスは動くものはすべてメスと思っしがみつくのたそうです。産卵は雨が降った23日の夜だったろうという話でした。3月26日、卵塊を確認。集まったカエルの数の割には卵塊が少なく、3つ位だったか。もしかして卵は2本足の動物に略奪されたのかもしれませんが。

4月6日、卵を包む寒天のようなものが溶けて、黒いつぶつぶが池の底に沈んでいました。よく見るとそのつぶつぶがピクンと動くのです。オタマジャクシの始まりでした。

今年のオタマジャクシの生存率は高く、生まれて1ヶ月程経った5月10日、かなりの数が生き残り、手足がついています。そして5月12日には1cmほどの豆カエルが10匹ほどうろろろしていました。

このとき池はかなり干上がっていました。干上がった状態のほうが水草の生育がよいため、3月6日梅まつり直後から湧水の流入をストップし、そのままにしていたからです。水が減って生き物がかわいそうだとか、泥が出てきて汚い、という声も聞きました。

ところがオタマジャクシは池が干上がったために生き延びられたようです。今年は岸近くには水はなく、オタマジャクシは岸から離れた、今にも干上がりそうな浅いところに集まっています。干上がったといってもずぶずぶで子供達も近づけません。ザリガニは、水面から外に身をさらされるため、オタマジャクシのいるところに寄ってきません。

というわけで、オタマジャクシが、無事にカエルになれる条件というものが少しわかったような気がしました。

毎日池に立ち寄ってオ
いう人もいました。干
いか、と心配する人
が、手足の生えた
水の中に移しても、
に戻ってきました。
で、水がなくても
ね。

そして…このニュー
タマジャクシはいない
と、生活の場所は陸上に
び出してくるかもしれません。

野生生物の世界、カエルになってからも多難な人生が待っているのでしょうか。(坂本 郁子)



タマジャクシを見ていくと
上がって死ぬんじゃない
もいました。ところ
オタマジャクシを
干上がったところ
手足が使えるの
大丈夫なのです

スが出るころもうオ
でしょう。カエルになる
るので、草むらから飛
「めでたし、めでたし」でしょうか。



手足が生えてきたオタマジャクシ

板橋区のカエル現況

板橋区で現在土着が確認されているカエルは以下の4種。

アズマヒキガエル:市街地にも生息しほぼ区内全域。幼生期が短いので劣悪な水辺環境にも耐えられる。

ウシガエル:荒川河川敷のみに生息。過去には赤塚ため池や徳丸たんぼに多数生息。外来種だが、幼生期が長く安定した広い水辺環境に棲む。

アマガエル:荒川河川敷のみに少数生息。人為的に放された固体がたまに市街地でも見つか。1960年代前半までは区内各地に生息していた。

トウキョウダルマガエル:荒川河川敷のみに少数生息。徳丸ヶ原(高島平)が一面の水田であった頃は多数生息していた。本種も減少により蛙食いのヤマカガシが絶滅?

いたばし水と緑の会総会の報告

4月23日(土)四葉集会所で第9回いたばし水と緑の会総会を開きました。出席者14名。鈴木信子会長挨拶のあと、16年度の活動報告、会計報告(表参照)が承認され、17年度活動の方針(板橋区に昔からいた動植物の生息・生育環境の保全)を再確認したうえで、具体的な17年度の活動内容について、意見交換を行いました。

収入の部		支出の部	
繰り越し	284,233	通信費	56,000
年会費(51人)	102,000	会場使用料	800
年会費(団体)	6,000	消耗品	16,037
寄付	5,000	印刷代	17,640
参加費	9,500	保険料	6,740
利息	2	その他	22,068
		繰り越し	287,450
収入計	406,735	支出計	406,735

主に話し合った内容は次の通りです。

水辺ピオトープのこれからについて

不特定多数の人が利用する公園内につくった水辺のピオトープは、整備して6年経過し、梅まつりなどのPR活動により、趣旨も理解されてきているが、施設の不具合や、人の立ち入りや生き物の放流などにより維持管理には苦勞が多く、とくにザリガニの繁殖力は半端ではない。水辺ピオトープの将来的な展望と対策について、会で1年間調査検討し、まとめることになった。

豊かな自然のある赤塚公園の価値をいかに行政や利用者に理解してもらうか

釣巻さんの昆虫調査によると、赤塚公園は目黒自然教育園や皇居と並ぶ生き物の多い自然豊かな場所であるらしいが、私たちも含めてそのような認識がない。そこで、自然を特徴づけた公園として位置づけてもらおうよう、提案をしていくことになった。

学校教育で赤塚公園から自然を学び活用してもらうために

会では生き物の生息環境を整え、自然観察等の活動を行っているが、このような自然環境に優れた赤塚公園を、近隣の学校における自然教育に活用されるよう働きかける。会としてもお手伝いできることがあるのではないかな。

会報の発行について

板橋区の自然情報誌として身近な自然の話題を提供していく。これまで謄写版で印刷していたが、写真がわかりづらいので外注印刷になる。

他団体との連携について

白子川と流域の水環境を良くする会などと協力して活動できるメニューも考える。

活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。

6月運営委員会： 6月3日(金) 18:30～20:30

7月運営委員会： 7月1日(金) 18:30～20:30

いずれもエコポリスセンターです。

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：7月17日(火) 18:00～ 場所：エコポリスセンター

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

運営委員会で会報の紙面や活動の内容を話し合っています。あなたも運営委員会に参加し、こんなことをしたい、してほしい等の意見や提案をしてください。メール、FAX、電話等によるご意見や、情報も歓迎します。区内の自然情報についての会報原稿も歓迎。字数は数行からOK。こんなことがあった、こんなものを見かけた等の情報をお寄せ下さい。

フィールドでの活動は毎月第4土曜日が定例の活動日です。主に赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察やゴミ拾い等を行っています。原則として雨天も実施します。会報への投稿、観察会は会員以外の方も参加できます。

5月の活動 城址の観察会(今回は自然観察のみ)

私たちが管理しているピオトープ周辺の動植物をさがします。会員でない方もどうぞ。

日時:5月28日(土)10:00～12:00 集合場所:美術館前トンボ池

持ち物:ルーペ、双眼鏡、図鑑

生き物の住める環境整備の活動

ピオトープとしての管理作業(調査・実験と作業)です。はじめる前にやる内容を打ち合わせ、終了時にやったことの確認と次回の課題を話し合います。5月と6月は毎週水曜日。雨天中止

日時:5月25日(水)10時～12時。 集合場所:美術館前トンボ池

連絡先:坂本 3968-9760

6月の活動 城址の観察会

城址の自然を探しましょう。ついでにゴミも拾います。

日時:6月25日(土)10:00～12:00 集合場所:美術館前トンボ池

持ち物:観察にはルーペや図鑑、ゴミ拾いには軍手、ゴミ袋、

バッタ広場と湧水水路の植物調査(日時未定)

6月と10月に植物の調査をします。同じ場所を続けてみんなで調査します。東京の自然があるとところの植物の勉強ができます。興味のある方は事務局まで。

会報紙面をグレードアップし、前よりきれいな写真の自然情報誌となりましたが、その分経費がかかります。あなたも会員になって身近な自然を大切にしていける活動を支えて下さい(年会費2000円です)。